

Amir Tsarfati氏 世界情勢アップデート 2017年 9月 19日公開

トランプ大統領国連演説

.....
ドイツはベルリンの中心より、シャローム。私の背後に見えるのは、ベルリン中心地の西側です。私が今、ここにいる目的は、また後ほどお話しますが、その前に、つい先ほど国連総会で行われたドナルド・トランプの演説についてお話したいと思います。トランプ大統領は、総会で国連の偽善と彼らのダブルスタンダード（二重基準）を暴き、明らかに、列席していた多くの国連代表者たちに恥をかかせました。トランプ大統領がパレスチナを支援しているとか、イスラエルを分断しようとしているとか、早まった判断で彼を非難している皆さん、国連総会でパレスチナ問題について一切口に出さなかったアメリカの大統領は、彼が初めてです。現在、それは問題ではないからです。事実、彼はイスラエルについて話をしました。しかし彼は、「イランがイスラエルの破滅を誓っている」という視点からイスラエルについて語りました。彼は、ヒズボラやかの地のテロ組織に言及する時、イスラエルについて語りました。彼がイスラエルの名を出したのは、その時です。国々は自分たちで防衛しなければならないという事実について語り、国を愛する事、愛国心が必要だという事実について、彼は語ったのです。彼はグローバリゼーションに傾くのではなく、「それぞれ国のアイデンティティーに価値があった時代に戻ろう」と述べたのです。実際、彼は北朝鮮に向かって、明確かつ厳格に伝えました。

「あなたがたが止めないなら、アメリカは北朝鮮を完全に破壊することも可能であり、また、それもやむを得ないだろう。」

彼が実際にそれを行うとは私は思っていないですが、それでもこれは言うべき事で、それもはっきりと明確に伝えられるべき事でした。また、彼はイランに対しても、

「人権侵害や自国民を苦しめているだけでなく、世界中にテロを広めている」

として非難しました。彼は、イラン協議はアメリカにとって最も恥すべき協議であることも認めました。彼は続けて、

「それに関して自分はまだ最終決定していない」

と述べました。つまり、その協議を取り消すチャンスがまだあることを、彼は示唆しているのです。

今回、私たちが目にしたのは信じられないようなことで、物凄く勇敢で、立派な演説だったと思います。ところで、CNNのコメンテーターが

「あれは演説ではなく、説教だ」

と言っていました。彼らはトランプ大統領を馬鹿にしていますが、現実には、彼は文字通り、一つには、ローマ書13章に書かれていることを、全ての人に明確に理解させました。国はそれぞれ、悪を行う者たちから自国を防衛する義務がある。もちろん、彼がローマ書を引用したわけではありませんが、彼は言いました。

「私たちには、自分たちを守る義務がある。我々には、悪を止める義務がある。ただ何もせずに座っていてはいけない。悪が勝利するには、善人が何もせずにじっとしているだけで十分なのだ。」

彼は、あちらでそう言ったのです。そして演説の最後の言葉は、

「偉大なる神、彼こそが私たち全員を導いてくださる方。全ての国々に神の祝福がありますように。アメリカ合衆国に神の祝福がありますように。」

彼は演説の最後に、神について触れることを忘れませんでした。私たちがより頼むべき、究極の主権者であり、私たちが待ち望む方です。

皆さんにお伝えしたいことがあります。何度も言っていますが、私はアメリカ人ではありませんし、トランプに投票したこともありません。彼の個性は、心から称賛しません。それでも、彼こそが今のこの大変な時代のアメリカ合衆国でホワイトハウスに相応しい人物だと、私は信じて疑いません。支配者層がどうしても彼を抑えきれなくなっているのが、明確に見えています。支配者層は、初めから彼の側ではなかったのです。あらゆる支配者層です。銀行、諜報、軍、どれもがそもそも彼の側ではありません。事実、ウィキリークスのジュリアン・アサンジは、アメリカ大統領選の前にこう述べました。

「トランプは、大統領にはなれない。彼は、認められていないからだ。」

それに関しては、またいつかお話しますが、つまり、私が言っているのは、それは事実であるという事です。彼は、支配者層からは認められていませんでした。そして、アサンジは、

「わたしの知る限り、彼を認めている支配者層は福音派だけだ。それが支配者層と呼べるなら、だが。」

と述べたのです。アメリカの福音派たちが、トランプが大統領になるのを可能にしたのです。あれがなければ、アメリカはグローバリゼーションに先頭を切って推し進め、完全に破滅していたことでしょう。私が把握する限り、アメリカは最後のチャンスを受け取りました。さらに私が信じているのは、悪の外殻、バビロンの霊の外殻が今、はるかヨーロッパに向かっていきます。

ちなみに、私がここにいるのはそのためです。背後をご覧ください。私は、ミネソタでのカンファレンスで話すメッセージをまとめているのです。ヨーロッパが、反キリストのおこりに近づいていることについてです。一方では、ここがどれほどの悪で、どれほどの闇であるか、言葉にもならないほどで、また、完全に無関心です。そして、他方では混乱と絶望で、信じられない状態です。

私が言いたかったのは、——私がたった今、テレビで観たのは、世界の指導者から素晴らしく勇敢で、何より聡明なメッセージが世界に向けて発信されたという事です。彼は、明確なメッセージを送りました。

「私は前任者とは違う。私はグローバリズムを推進するような者とは違う。投票者の皆さんにした、私の公約は今も私のガイドラインであり、それをもって前進するためなら、どんなことでもする。」

彼は、何千億ドルという金額を、アメリカの軍隊を回復させるために投入し、

「私たちは助ける用意が出来ている」と述べました。

「しかし、我々は、常識をもって援助しなければならない。一人の難民をアメリカに避難させる同額の資金で、10人の難民を、対立が起きている場所の周辺諸国に避難させることが出来る。それなのになぜ、彼らを同じ場所の安全なところへ置くのではなく、アメリカであれ、ヨーロッパであれ、他の場所に彼らを連れて行くことにこだわるのか？同じ資金で、はるかに多くの人を助けることが出来るのだ。」

あれは納得のいく、明確な声であり、状況を理解した声でした。それだけではなく、「勇敢なイデオロギー」の堂々とした声だったと思います。これはもう、世界のどこにもみられません。

言うておきますが、支配者層は現在、激怒しています。彼らは国連演説がもう少し「大統

領らしく」、世界に優しく訴えるものを期待していたのです。彼らはトランプが優しく出る事を期待したのです。しかし、彼は駆け引きはしませんでした。「私は大統領のドナルド・トランプです！」なんて言うために来たのではない。あなたがたは今、私の都市、ニューヨークにいるのだ。この組織に対しての私の意見はこれ、世界中で起こっていることに対して、私の意見はこれだ。あなたがたは、頭を砂の中に埋め込んで、世界中で起こっていることを無視することも出来るし、世界中で困難な問題が起こっていることを理解することも出来る。その問題から、あなたがたは逃げることは出来ないのだ。

さらに、国連人権委員会の偽善を暴きました。彼らは人権侵害している国々に従っているのですから。そして、国連の安全保障理事は、常にイスラエルに憑りつかれています。そして、国連大使のヘイリーもドナルド・トランプ同様、実に明確にしました。

「国連安保理は今後一切、イスラエルを標的にして、常にイスラエルに不利になるような票を投じるようなことはしない。」

そういう時代は終わりました。国連常任理事国らの残虐な手によってイスラエルが抑えられ、彼らが権力を振りかざす、そんな時代はもはや終わりました。

ということで、トランプ大統領の勇敢な演説に、祝辞を述べたいと思います。ネタニヤフの演説も楽しみです。きっとこれと何ら変わらないと思います。彼はいつも国連の偽善を暴いて来まして、これまでもずっと、彼らの顔に真実を突き付けて来ましてから、今回もトランプ政権の追い風を感じながら、同じことをするでしょう。オバマの非常に冷淡で、何というか、囚われていた政権の時さえ、ネタニヤフは決して揺らぐことがありませんでした。彼は、彼らに正面から真実を告げる為に、国連総会に出席していました。

世界中で物凄いことが起こっています。後ほどまたアップデートしますが、中東でも様々な事が起こっています。現在、ベラルーシ共和国には、数十万人のロシア兵がおり、基本的には「ロシアの西ヨーロッパ侵略の模擬演習」をしています。これは「ザパド」と呼ばれ、——ザパドは西という意味——言い換えれば、「我々は西へ行く」という意味です。ザパド2017。しかし、向こうで実際に起こっているのは、ヨーロッパ北部も同様、中東で本当に起こっていることの煙幕であると、私は思っています。この一週間~10日ほどの間に、私たちが見ているのは、ロシアの貨物機の、前代未聞の動きです。アントノフ、イリュージョン——これらはそれぞれ400人の兵士を運搬することが出来るのです。そして彼らは行ったり来たりしています。しかし、彼らがそこから兵士を連れ出しているのではない事は明らかです。あちらには、ロシア兵はそこまでたくさんいませんから。彼らは何百、何千という数のロシア兵をシリアに運び込んでいるのです。面白くないですか？

トルコは、シリアに戦車を乗入れていると報告されています。なぜでしょう？それは、クルドが独立宣言するのを恐れているからです。クルドは25日に投票を行います。皆さん、

(9月) 23日について話をするのを止めましょう。あんな話をするのはよしましょう。25日は、イラン・シリア・イラク、そして当然トルコは、勇敢なクルド人たちが住民投票を行うことに、敵対するでしょう。基本的に、クルド人たちは独立に向けて投票します。これが興味深いことに、偽善の世は、国家が実際に存在したこともない、パレスチナの権利には飛びつくのに、歴史的な国、クルドに対しては何もしません。彼らは長年、自分たちの独立のために戦っているのです。それなのに、誰も何もしない。何故でしょう？それは、パレスチナ問題を支持すれば、明らかにイスラエルに敵対するのです。ところが、クルドを支援すると、イスラエルの側に立つことになります。イスラエルはクルドを味方とみな

しているからです。クルドの大きな集会の写真を見ましたが、何千とあるクルドの旗の中に、イスラエルの旗がありました。彼らは、自分たちの地域のイスラム教徒より、私たちの方を同一視しているのです。彼らは、私たちが彼らの味方であることを知っています。我々の司令官がPKK（クルド労働者党）をテロ組織とは見ていませんからね。全く見ていません。

信じられないようなことが起こっていて、私はとてもワクワクしています。私は、日や時刻を定めたりはしませんが、物凄い時代に私たちは生きています。私はワクワクしています。自分がどこへ行くのかを知っていますから。私はワクワクしています。私の救い主がくださった約束を知っていますから。私はワクワクしています。私たちは文字通り、エゼキエルの時、イザヤの時、マタイ24章、ルカ21章のオリーブ山の説教の時を生きていますから。私たちは驚くべき日々、時期にいるのです。主との歩みに真剣になる時です。行動を正す時です。自分の行動を見直す時です。この終わりの時、偶像的なこと、どうでも良い事に時間を無駄に使わないことです。これらの事は、崩壊するのですから。揺り動かされるものは、全て揺り動かされ、神の事だけが立ち続けるのです。これは、ただの警告だけではなく、目を覚まさせるためのものでもあるのです。手遅れになる前に、皆さんが理解されることを願います。まだ希望はあります。その希望とは、私たちには、私たちの苦しみを理解してくださる神がおられる。そのため、神はイエスを人として、人の中に住まわせてくださったのです。私たちには、私たちが直面している全ての苦難を理解してくださる大祭司がおられるのです。あっちの、いつも自分を他と切り離して、自分を上に置くような祭司とは違います。イエスは、人の中に住まわれました。だから、私たちには、私たちの直面している問題を知ってくださる方がいます。私たちには、私たちが迎えに来るまでは聖霊を与える、と約束してくださった方がいます。ちなみにイエスは、神に私たちをこの世から取り去ってくださいとは、一度も祈りませんでした。実際に、イエスはヨハネ17章でこう言われました。

15 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。

(ヨハネ17:15)

そして、時が来れば、主が来て、私たちを取り去ってください。主は、私たちと雲の中で会い、私たちは主と雲の中で一緒になるのです。でも、それまでは、私たちを悪から取り除くのではなく、悪から守ってくださるのです。もちろん、その後主は来られて、私たちを連れて行き、この世への神の御怒りから守ってくださいます。つまり要点は、私たちには大きな約束がされているのです。今、イエスが執り成してくださり、悪から守られる事、そして後には、すぐそこまで迫っている近い将来には、全てが墮落するこの世から出て行く。

どうか皆さん、元気を出してください。今は物凄い時代です。こんな時代に生きているとは、信じられないことです。悪の時代でなく、暗黒の時代でもなく、今の時代に生きていることを、毎日神に感謝するべきです。他のどの時代とも違って、私たちは神が動いておられるのを目にしています。世界中ですごい事が起こっています。地球規模の大惨事はどんどん激しくなる一方です。戦争や、戦争のうわさを目にしています。国は国に、人は人に敵対しています。地震、疫病、飢饉も目にしていますし、物凄い事を目撃しているのです。まさに、イエスが言われた通りの、被造物が経験している産みの苦しみを目にしてい

るのです。これらがしるしです。探すのではなく、そこら中にあることを認めるのです。私たちは、目に見えないものを探し回る必要はありません。これらのしるしを、私たちは見えていますから。コンピューターや、解析や、宇宙機関や、そんなものは私たちには必要ありません。私たちの周り全体にあるのですから。私たちがすべきことはただ、それらがそこら中で起こっていると認識するだけです。そして、私たちがすべきことは、主を信頼することです。主は、始めたことは完成される誠実なお方です。

ということで、ドイツはベルリンの中心から、ありがとうございます。明日、家族とラッパの祭りを祝うため、自宅に戻ります。ユダヤ人はこれを「ロシュ・ハシャナー」（年頭）と呼びますが、聖書的にはこれは年頭ではありません。聖書的には、これは第7の月の初日ですから、最初の月ではないのです。聖書の中で、第1の月とはエジプトから出た日です。レビ記23章を読めばわかります。その時に、神は物事を行わせるための暦を始められたのです。この後、「神の暦」のメッセージの中の、ラッパの祭りについて話している部分を投稿しますので、ぜひご覧ください。これもスゴイ事だとおもいます。私たちはすでにラッパの祭りの時代に生きているのです。動画をご覧になると、その理由がわかります。その中で、レビ記の中で告げられている二つのラッパについて（書記注:二つのラッパについての言及は民数記10:2。レビ記では23:24でラッパの祭りについて言及されている）、それらは何を象徴しているのかを説明しています。

ということで、また新たなラッパの祭りが近づいています。また、転機となるような、新たなしるしが起ころうとしています。実際、まさに終わりに近づいています。体をまっすぐにして、頭を上げて、私たちの贖いを待ちましょう。それは、確実に近づいていますから。

ありがとうございます。ヨーロッパの中心より、God bless you!
明日、イスラエルに戻りましたら、またアップデートを行います。

メッセージby Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>